

第97期

# 中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日

## ▶ 目次

株主の皆様へ .....	1
業績の推移 .....	5
連結貸借対照表 .....	7
連結損益計算書 .....	8
連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
会社概要 .....	9
株式の状況 .....	10
株主メモ（株式のご案内） .....	裏表紙

 大平洋金属株式会社

証券コード：5541



株主の皆様におかれましては、格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

ここに第97期第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の当社グループの事業の概況につきましてご報告いたします。

2022年12月

代表取締役社長

# 青山 正幸

### 経営理念

人の力を活かし、地球の資源をより有用なるものとして提供し、人類社会の幸福に貢献する

### 経営方針

1. 当社グループ全体の経営戦略を一体化して、グループ各社のシナジー効果を最大限に発揮すること。
2. 世界に誇る製錬技術の開発と品質向上に全力を傾注し、経営の効率化と競争力で世界有数の基盤を確立すること。
3. コンプライアンスを推進すること。
4. 公正・透明・自由な競争を通して、適正な利益を確保すること。
5. かけがえのない地球を守るため、あらゆる環境問題に積極的に取り組むこと。
6. 社員の個性を伸ばし創造性を十分に発揮させるとともに、物心両面のゆとりと豊かさを追求し、生きがいのある職場を実現すること。
7. 広く社会との交流を進め公正な企業情報を積極的に開示すること。

**当** 第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）の動向に左右されながらも企業収益・個人消費等は持ち直している一方で、資源高及びドル高の同時進行は国内需要回復の重石となっており、回復基調の中でも弱さの混在した推移となりました。

海外経済については、概ね雇用・所得環境等は堅調に推移しておりますが、感染症再拡大懸念、金融資本市場の変動、ウクライナ情勢の長期化及びインフレ加速等の影響に伴い景気減速が懸念され、不確実性の高い状況が継続しました。

このような状況のもと、当社グループの売上高並びに損益の大半を占めるニッケル事業の主需要先であるステンレス鋼業界は、経済活動正常化の動きに伴い需要は持ち直し傾向にありましたが、中国の感染症再拡大による経済活動抑制の影響や不動産市場の低迷及びウクライナ情勢の長期化等により、市況の不透明感が増しており、生産設備の稼働率にばらつきが見られた推移となりました。

**こ** のため、フェロニッケル需要は、減速感の見える推移となりました。

調達面において、フェロニッケル製品の主原料であるニッケル鉱石の調達は、当社生産数量に見合う調達を維持しました。価格面では、ニッケル鉱石の価格に関しては、インドネシア未加工鉱石禁輸政策による影響及び底堅いニッケル鉱石需要等を背景に高水準で推移しており、また、製造過程で使用する原燃料価格及び電力コストの高騰等によって、生産コストの上昇幅が拡大することとなり大きな影響を受けました。

ロンドン金属取引所（LME）におけるニッケル価格は、金融資本市場の変動、ウクライナ情勢に関連する複合的な要因及び不透明な

原油商品市況等の影響は継続しており、加えて、インフレ加速による景気減速懸念も意識され、比較的高水準にある中で、方向感の定まらない動きで推移しました。

その中で、当社のフェロニッケル販売数量は、前連結会計年度末直前に発生したフェロニッケル製造設備3基中1基の電気炉溶融物漏出事故に伴う生産数量減の影響で抑えた販売計画としており、加えて、海外ステンレス生産者の原料調達が比較的价格優位性が見られるニッケル銑鉄等へ一部シフトする状況は継続し、また、ステンレス鋼業界における設備稼働率にばらつきが見られているため、前年同四半期と比べ国内外向けともに減少し、全体では前年同四半期比56.3%の減少となりました。

フェロニッケル生産数量は、電気炉溶融物漏出事故の影響等に伴い前年同四半期と比べ減少しました。なお、対象の生産設備1基の復旧については、ニッケル需給に緩みが見られること、また、ステンレス生産者は生産コストを含めても価格優位性が見られるニッケル銑鉄へ一部調達をシフトしており、ニッケル銑鉄の価格は当社の販売価格へも影響する環境になっていることから、一定の収益性を損なわない戦略的な数量の抑制の方針をシフトしたため、当連結会計年度第3四半期に見込んでいた操業再開は、翌連結会計年度へ変更いたしました。事業環境を注視しつつ、数量抑制方針を解除した段階で立上げいたしますが、当連結会計年度第3四半期中には、生産設備自体の復旧は可能な状態まで整備する見込みです。

フェロニッケル製品の販売価格は、不透明感の増す事業環境への対応等は継続している中で、当社適用LMEニッケル価格は前年同四半期比49.2%上昇及び当社適用平均為替レートは前年同四半期比20.5%の円安となり、価

## 株主の皆様へ

格高となりました。一方で、価格優位性の見られるニッケル銑鉄の価格は当社の販売価格へも影響する環境になっていることから、当社適用LMEニッケル価格と当社適用平均為替レートに加えてニッケル銑鉄の価格も一部参考とした価格水準としており、収入が伸び悩む厳しい販売環境へ急変しております。

このように、感染症及びウクライナ情勢等の影響は今後も継続するものと考えられますが、このような不確実性の高い事業環境等への対応施策は継続的に進めており、収益基盤をより一層強化させるため、省エネ・低コスト生産等によるトータルコスト削減の推進、最適生産体制構築のための設備強化及び鉱石の長期安定調達へ向けた取り組み並びに採算性重視の受注を徹底し、臨機応変な生産販売体制の構築等に努めております。さらには、海外事業展開・新規鉱山開発等の早期実現及びコストミニマムを追求するための業務効率改善策の強化等、業績の底上げ及び収益安定化に向けた取り組みを継続しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の連結経営成績は、連結売上高が17,642百万円、前年同四半期比では26.8%の減収となりました。損益面では、減収要因に加え、棚卸資産の収益性低下による簿価切下げ額の計上に伴う売上原価の増加等もあり営業損失は4,464百万円(前年同四半期営業利益952百万円)、営業外収益において持分法による投資利益3,699百万円の計上等を含めた経常利益は605百万円、前年同四半期比では84.8%の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は229百万円、前年同四半期比では93.3%の減益となりました。

なお、中間配当金につきましては、年間業績見通しを慎重に検討いたしました結果、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきました。



後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)及びウクライナ情勢は、国内外の景気へ引き続き影響を及ぼしており、経済の先行きは、依然不確実性が高い状態で推移しております。

数量面において、前連結会計年度末直前におけるフェロニッケル製造設備3基中1基の電気炉溶融物漏出事故の影響に加えて、中国の感染症再拡大による経済活動抑制の影響や不動産市場の低迷及びウクライナ情勢の長期化懸念等により不透明感が増しニッケル需給に緩みが見られること、また、ステンレス生産者は、生産コストを含めて価格優位性のあるニッケル銑鉄へ一部調達をシフトしており、ニッケル銑鉄の価格は当社の販売価格へも影響する環境になっていることから、一定の収益性を損なわない戦略的な数量の抑制へ方針をシフトしたため、前回公表計画を下回る厳しい環境を見込んでおります。漏出事故の影響で停止した電気炉1基の復旧については、前述のとおり数量の抑制へ方針をシフトしたため、当連結会計年度第3四半期に見込んでいた操業再開は翌連結会計年度へ変更いたしました。事業環境を注視しつつ、数量抑制方針を解除した段階で立上げいたしますが、当連結会計年度第3四半期中には、生産設備自体の復旧は可能な状態まで整備する見込みです。

販売価格面では、当社フェロニッケル製品の販売価格形成の指標となる当社適用LMEニッケル価格は比較的高水準に推移している一方で、価格優位性が見られるニッケル銑鉄の価格は当社の販売価格へも影響する環境になっていることから、当社適用LMEニッケル価格と当社適用平均為替レートに加えてニッケル銑鉄の価格も一部参考とした価格水準としているため、売上高への影響が見込まれます。

調達面においては、ニッケル鉱石等は生産に見合う数量は確保する見通しの一方で、ニ

ツッケル鉱石価格は高水準に推移しており、また、製造過程で使用する原燃料価格及び電力コストの高騰等によって、生産コストの上昇幅が拡大しており、損益へ大きな影響を与えることが見込まれます。

感染症及びウクライナ情勢に伴う影響は、当連結会計年度においても継続するものと考えられますが、そうした事業環境等への対応は、当社グループの中期経営計画において掲げる基本方針等で取り組む活動に合致しており、引き続き、強く推し進めて参ります。

このような状況のもと当社グループは、ユーザーとの安定した取引と信頼関係の継続、

鉱石の長期安定調達、低コスト操業の推進等、あらゆる施策に取り組み、業績回復を目指して参ります。

また、当社グループは、企業の継続的な成長・発展と中長期的な企業価値の増大を図るため、コンプライアンスの強化、コーポレート・ガバナンスの充実及び内部統制システムの円滑な運用を重要な経営課題と認識し、鋭意取り組んで参ります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 事業部門別の概況

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

### 【ニッケル事業】

ニッケル事業についての経営成績は、2頁に記載のとおりであります。

その結果、当部門の売上高は17,319百万円、前年同四半期比27.0%の減収、営業損失は4,328百万円（前年同四半期営業利益996百万円）となりました。

### 【ガス事業】

ガス事業についての経営成績は、安定した操業ではありましたが、設備修繕に伴う費用計上等もあり、当部門は損失計上となりました。

その結果、当部門の売上高は343百万円、前年同四半期比13.3%の増収、営業損失は25百万円（前年同四半期営業利益16百万円）となりました。

### 【その他】

その他の事業部門につきましては、不動産事業において売買成約はなく、また、廃棄物リサイクル事業は受注低迷等で、当部門は損失計上となりました。

その結果、当部門の売上高は28百万円、前年同四半期比75.4%の減収、営業損失は114百万円（前年同四半期営業損失65百万円）となりました。

## 業績の推移

### 事業部門別売上高及び営業利益の状況

#### ● 売上高

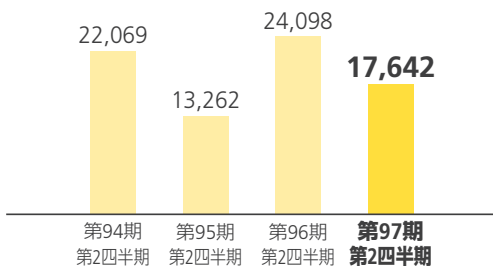
区 分	第96期第2四半期 (2021.4~2021.9)		第97期第2四半期 (2022.4~2022.9)		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
ニ ッ ケ ル 事 業	23,736	98.5	17,319	98.2	△6,417	△27.0
ガ ス 事 業	303	1.2	343	1.9	40	13.3
そ の 他	113	0.5	28	0.2	△85	△75.4
事 業 部 門 間 の 消 去	△54	△0.2	△48	△0.3	6	—
合 計	24,098	100.0	17,642	100.0	△6,456	△26.8

#### ● 営業利益 (△損失)

区 分	第96期第2四半期 (2021.4~2021.9)		第97期第2四半期 (2022.4~2022.9)		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
ニ ッ ケ ル 事 業	996	104.7	△4,328	97.0	△5,325	—
ガ ス 事 業	16	1.7	△25	0.6	△42	—
そ の 他	△65	△6.9	△114	2.5	△48	—
事 業 部 門 間 の 消 去	4	0.5	4	△0.1	△0	—
合 計	952	100.0	△4,464	100.0	△5,416	—

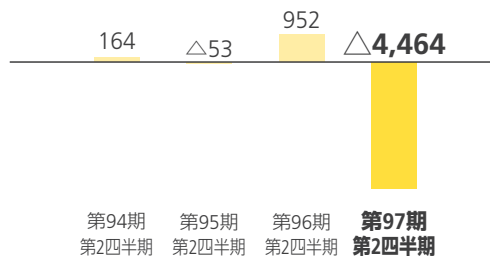
#### 売 上 高

(単位：百万円)



#### 営 業 利 益 (△損失)

(単位：百万円)





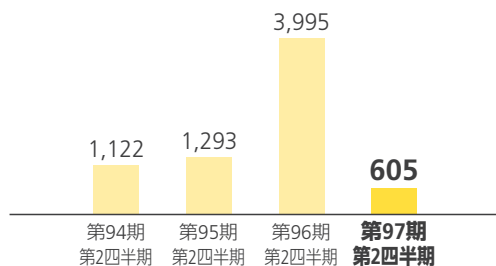
## Ⅰ 財産及び損益の状況の推移

(単位：百万円)

区 分	第94期第2四半期 (2019.4～2019.9)	第95期第2四半期 (2020.4～2020.9)	第96期第2四半期 (2021.4～2021.9)	第97期第2四半期 (2022.4～2022.9) (当第2四半期連結累計期間)
売上高	22,069	13,262	24,098	17,642
経常利益	1,122	1,293	3,995	605
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,016	1,260	3,405	229
1株当たり四半期純利益	52.13円	64.62円	174.61円	11.75円
総資産	73,094	71,205	77,560	83,622
純資産	65,587	65,572	70,517	76,080

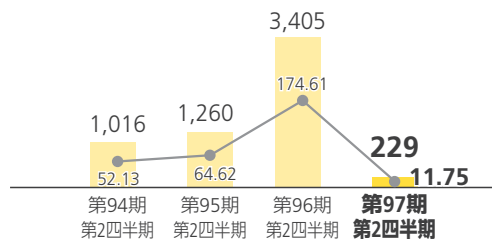
### 経常利益

(単位：百万円)



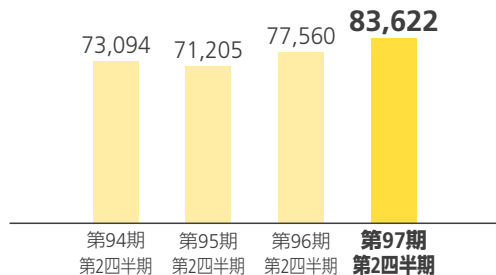
### 親会社株主に帰属する四半期純利益 1株当たり四半期純利益

■ 親会社株主に帰属する四半期純利益 (単位：百万円)  
● 1株当たり四半期純利益 (単位：円)



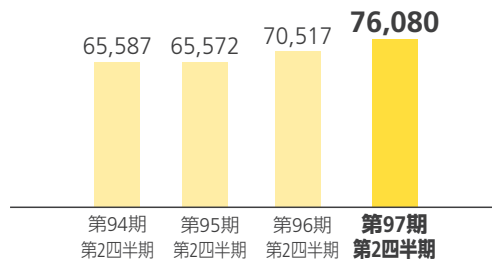
### 総資産

(単位：百万円)



### 純資産

(単位：百万円)



# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2022年3月31日現在)	当第2四半期末 (2022年9月30日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>57,882</b>	<b>51,824</b>
現金及び預金	26,332	13,883
売掛金	13,994	9,771
有価証券	2,999	2,300
商品及び製品	5,649	11,918
仕掛品	453	456
原材料及び貯蔵品	5,587	10,154
その他	2,867	3,340
貸倒引当金	△2	△1
<b>固定資産</b>	<b>31,970</b>	<b>31,798</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>7,734</b>	<b>8,074</b>
無形固定資産	1	1
<b>投資その他の資産</b>	<b>24,234</b>	<b>23,722</b>
投資有価証券	23,903	23,440
その他	336	287
貸倒引当金	△5	△5
<b>資産合計</b>	<b>89,852</b>	<b>83,622</b>

科 目	前期末 (2022年3月31日現在)	当第2四半期末 (2022年9月30日現在)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>5,508</b>	<b>4,081</b>
支払手形及び買掛金	1,341	1,475
未払費用	1,761	1,336
未払法人税等	1,026	399
賞与引当金	444	221
その他	935	649
<b>固定負債</b>	<b>4,190</b>	<b>3,460</b>
退職給付に係る負債	122	58
繰延税金負債	2,077	1,472
再評価に係る繰延税金負債	631	631
環境対策引当金	5	12
訴訟損失引当金	34	—
契約損失引当金	1,306	1,273
その他	11	11
<b>負債合計</b>	<b>9,699</b>	<b>7,542</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>75,542</b>	<b>72,747</b>
資本金	13,922	13,922
資本剰余金	3,481	3,481
利益剰余金	58,590	55,796
自己株式	△450	△451
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>4,323</b>	<b>3,054</b>
その他有価証券評価差額金	4,603	2,662
土地再評価差額金	593	593
為替換算調整勘定	△969	△293
退職給付に係る調整累計額	95	92
非支配株主持分	287	278
<b>純資産合計</b>	<b>80,153</b>	<b>76,080</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>89,852</b>	<b>83,622</b>



# 連結損益計算書／連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
売上高	24,098	17,642
売上原価	21,749	20,885
売上総利益又は売上総損失 (△)	2,348	△3,243
販売費及び一般管理費	1,396	1,220
販売費	659	437
一般管理費	737	783
営業利益又は営業損失 (△)	952	△4,464
営業外収益	3,149	5,137
受取利息	4	6
受取配当金	215	237
不動産賃貸料	51	51
持分法による投資利益	2,642	3,699
為替差益	133	1,056
その他	102	86
営業外費用	106	67
支払利息	0	0
外国源泉税	30	31
その他	75	36
経常利益	3,995	605
特別利益	—	386
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	—	386
特別損失	232	76
減損損失	221	—
固定資産除却損	11	76
税金等調整前四半期純利益	3,762	915
法人税等合計	343	696
法人税、住民税及び事業税	308	518
法人税等調整額	35	177
四半期純利益	3,418	219
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	13	△9
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,405	229

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	2,745	△10,411
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,793	814
財務活動による キャッシュ・フロー	△391	△3,001
現金及び現金同等物に 係る換算差額	23	250
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△416	△12,348
現金及び現金同等物の 期首残高	22,286	26,631
現金及び現金同等物の 四半期末残高	21,870	14,283

# 会社概要 (2022年9月30日現在)

● 会社名	大太平洋金属株式会社 (PACIFIC METALS CO.,LTD.)	● 資本金	13,922,000,000円
● 創立	1949年12月1日	● 従業員数	424名 (連結：470名)

## ● 役員及び執行役員

代表取締役社長	青山正幸	常勤監査役	達中輝一
取締役専務執行役員	猪股吉晴	監査役(社外)	安田健
取締役常務執行役員	原賢一	監査役(社外)	緒形秀樹
取締役常務執行役員	松山輝信	監査役(社外)	池田修三
取締役上席執行役員	一柳広明	上席執行役員	岡村千足
取締役上席執行役員	岩館一夫	上席執行役員	河端聡
取締役(社外)	松本伸也	執行役員	松村知幸
取締役(社外)	今井光	執行役員	木村徹嗣
取締役(社外)	酒井由香里		

● 重要な子会社	太平洋興産株式会社、株式会社大太平洋ガスセンター
----------	--------------------------

## ● 事業所一覧



- **本店**  
東京都千代田区大手町一丁目6番1号  
大手町ビル  
TEL. 03-3201-6681
- **八戸本社**  
青森県八戸市河原木遠山新田5番2  
TEL. 0178-47-7121
- **フィリピン事務所**  
Unit-2, 22/F, NAC Tower, 32nd St.,  
Bonifacio Global City, Taguig City,  
Philippines
- **ジャカルタ事務所**  
Sentral Senayan II, 15th Floor Jl.  
Asia Afrika No.8, Jakarta 10270,  
Indonesia

## 株式の状況 (2022年9月30日現在)

### ● 株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株	株主数	16,316名
発行済株式総数	19,577,071株	単元株式数	100株

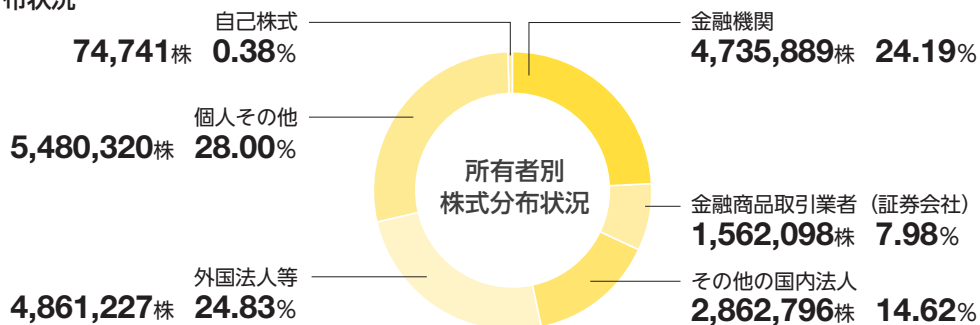
### ● 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,125	16.02
日鉄ステンレス株式会社	2,049	10.51
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	1,309	6.72
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1,148	5.89
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	682	3.50
立花証券株式会社	682	3.50
JP MORGAN CHASE BANK 385781	388	1.99
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMS PR CLIENT ASSETS-SEGR ACCT	312	1.60
大平洋金属取引先持株会	210	1.08
INTERNATIONAL CORE EQUITY PORTFOLIO DFA INVESTMENT DIMENSIONS GROUP INC	200	1.03

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式数74,741株を減じた株式数19,502,330株を基準に算出しております。

### ● 所有者別分布状況



## 株主メモ (株主のご案内)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関  
株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

フリーダイヤル 0120 (782) 031  
(オペレーター対応 平日9:00~17:00)

インターネットホームページURL

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

(よくあるご質問 (FAQ))

[https://faq-agency.smtb.jp/?site\\_domain=personal](https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal)

公告の方法

当社のホームページに掲載する。  
<https://www.pacific-metals.co.jp/koukoku/>  
但し、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。

上場証券取引所 東京証券取引所

### 【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先 (三井住友信託銀行株式会社 証券代行部) にご連絡をお願いいたします。なお、お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトでご確認いただけます。

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構) を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座 (特別口座といえます) を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先 (三井住友信託銀行株式会社 証券代行部) をお願いいたします。

## ホームページ紹介

サステナビリティページも  
ご覧ください



当社ホームページもご覧ください。  
またIR専用ページでは経営計画や財務情報、株式情報等、株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

大平洋金属

検索

<https://www.pacific-metals.co.jp/>

### 【株式に関する「マイナンバー制度」のご案内】

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。  
このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けいただく必要がございます。

#### マイナンバーのお届けに関するお問い合わせ先

- 証券会社にて株式を管理されている株主様  
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とお取引がない株主様  
上記の電話照会先 (三井住友信託銀行株式会社 証券代行部) にお問い合わせください。